

東温市における継続的なMM施策の推進と今後の展開

山内 健太郎 (東温市)

森山 昌幸・大熊 裕理子 (株式会社バイタルリード)

宮崎 耕輔 (香川高等専門学校)

松村 暢彦 (愛媛大学)

背景と目的

東温市では連携計画策定以降、路線バスの再編など利用しやすい交通環境を構築してきました。松山市とを結ぶ鉄道及び路線バスのサービス水準は高く、その水準を維持するために利用促進を図る必要があります。そのため、子どもを対象とした様々な取り組み、情報冊子の配布、転入者 MM などを行っています。また、新たな網形成計画では、主たる目標を利用者数を5年前の水準に戻すこととしており、今後も MM による利用促進を図ることとしています。

《実施してきたMM施策》

実施時期	施策内容	情報の見える化とコミュニケーション手法
平成23年 ～ 平成25年	・山間部路線バスの試験運行	・運行計画策定時に住民および高齢者団体や地域公共交通を考えるNPOと意見交換・広報誌等による周知徹底
平成25年度	・路線バス乗降調査 ・利用者ヒアリング調査	・ニーズと改善点の把握 ・広報誌等による情報共有"
	・住民アンケート調査 ・民生委員アンケート調査 ・サロン世話人アンケート調査 ・区長アンケート調査	・ニーズとサービス評価の把握 ・広報誌等による情報共有"
	・路線バスカルテ	・路線別のバスカルテとして整理 ・協議会、地域意見交換会等での情報共有
平成26年度	・住民意見交換会	・地域住民のニーズ、評価、要望を把握 ・ニュースレターを作成し、対象地域に配布
	・転入者MM・公共交通便利帳 ・おためし乗車券 ・自宅最寄り駅・バス停のマップ ・最寄り駅またはバス停の時刻表マグネットカード ・公共交通利用提案カード ・路線バスペーパークラフト ・転入者アンケート(初回・追跡)	・利用促進に向けた転入者へのコミュニケーション ・市街地における公共交通サービス水準の高さを認知"
	・公共交通便利帳 地域勉強会 ・山間部地域での意見交換会 ・公共交通を考える会との意見交換会 ・交通すごろくによる学習 ・ガリバーマップによる学習	・市民への公共交通情報(鉄道、路線バス、タクシー)、利用方法、動機付け情報を提供 ・住民からの公共交通に対する意見聴取 ・市民(特に児童とその保護者)を対象とした交通に関する学習 ・広報誌等による情報共有"

プロジェクト内容

1) 子供 MM



車体後部には、最優秀作品を用いたポスターを提示しています。

●小学生バスの絵コンテストを実施



●ガリバーマップによる学習



●バス支援団認定制度



●交通すごろくによる学習

2) 情報提供



●公共交通便利帳の作成及び配布



●広報誌に公共交通ニュースを連載

3) 利用促進



●地域での勉強会を開催
●転入者 MM の実施

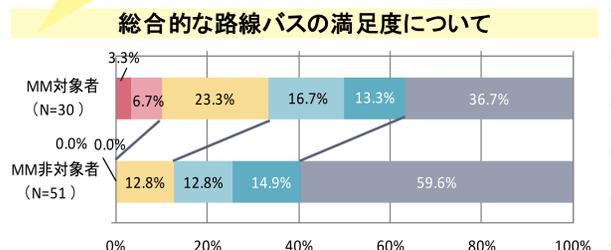
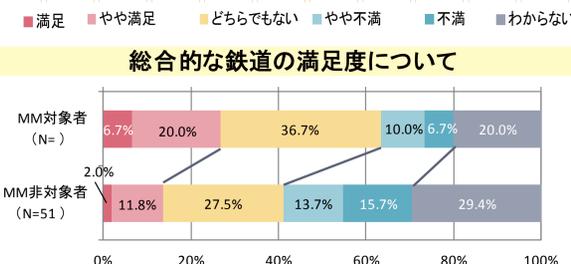
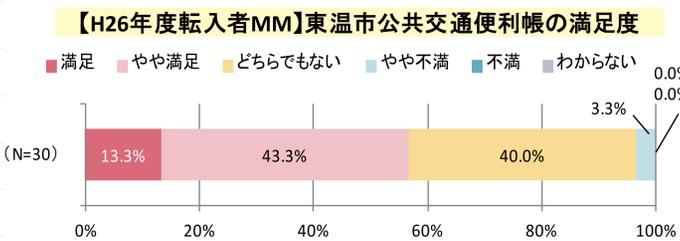


●市民団体によるバスを利用したツアーの開催

効果

市民アンケート結果からは公共交通に対する認知度が高くなる結果が得られました。また、情報提供に対する満足度や評価も高い結果となっています。さらに、市民団体が自発的に公共交通の利用促進活動を行うようになるという効果も得られました。

MM対象者は満足度が高く、認知度も高くなっている。
(「わからない」と回答した人が少ない)



結論

様々な MM 施策の推進が市民の公共交通への認知度向上に寄与している結果が得られました。しかし、利用者数の減少には歯止めがかかっていません。今後は、実際に利用回数を増加させるための行動変容に向けた、さらなる MM 施策を展開し、市民全員で公共交通サービスを維持する気持ちの醸成と利用促進を図る予定です。

《東温市地域公共交通網形成計画》

計画の基本理念

まちを支える公共交通サービスを
みんなで10年後に残そう



この目標値は市民一人あたり

鉄道なら
年に4回

路線バスなら
年に2回

乗ると
目標達成

計画の数値指標

	鉄道	路線バス
現状	年間約185万人	一便あたり平均13.7人
目標	年間約198万人	一便あたり平均14.7人

